

『オリエンテーション合宿 ZERO TO ONE』実施報告書

1. 概要

国立江田島青少年交流の家では、令和3年度教育事業として、広島県立大柿高等学校1年生を対象に「オリエンテーション合宿 ZERO TO ONE」を開催しました。変化の激しい時代を迎え、はっきりした答えのない世の中を生き抜くために高校生に探究活動を通して深く考える力を身につけることに取り組みました。

- 趣 旨 高校生の体験活動を通じた成長をめざし、新学習指導要領で重視されている探究の手法を用いて課題を発見し、解決策を見出す力・他者と協力し物事を成し遂げる力を身につけさせ、地域や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生の育成を図る。
- 協 力 取釜 宏行 氏（一般社団法人まなびのみなと代表理事）
峰尾 亮平 氏（瀬戸内いとなみ舎合同会社）
西原 直久 氏（大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館））
津島 久人 氏（紙布壁紙製造元津島織物製造株式会社）
沖山 努 氏（江田島焼窯元 沖山工房）
- 期 日 令和3年5月6日（木）～9月2日（木）
※交流の家日帰り利用：令和3年6月2日（水）～6月3日（木）
- 参加人数 広島県立大柿高等学校1年生37名（5人×5グループ、4人×3グループ）

2. 活動内容

（1）カリキュラムについて

学校との事前の打ち合わせの結果、5月より毎週水曜日に交流の家職員が学校へ赴き、全11コマ（19時間）のカリキュラムを進め、2学期にプログラムのセカンドステージである実践活動に入ることとした。例年、学校が行っている新入生の宿泊学習にオリエンテーション合宿（以下 OR 合宿）のカリキュラムを兼ねて実施する予定だったが、新型コロナウイルスの緊急事態宣言発令により、日程を短縮し日帰りで実施した。

	日にち	No.	科目名	内容	コマ数
導入	5月6日	1	ガイダンス	地域探究プログラムの趣旨・内容を理解する。	1
	5月6日	2	講話等「地域づくりの実践」	地域づくりの実践家による講話	1
	5月12日	3	フィールドワーク①「地域の魅力を発見」	地域づくりの活動を体験。魅力を発見する。	3～6
	5月26日	4	講義・演習①「地域理解」	フィールドワーク先の活動目的やネットワークを整理する。	2
探究実践	6月2日	5	講義・演習②「課題解決の基礎」	1.探究のプロセスを学ぶ。	2～4
	6月2日	5	講義・演習②「課題解決の基礎」	2.地域をよりよくするアイデア（仮説）を立てる。	
	6月2日	5	講義・演習②「課題解決の基礎」	3.フィールドワーク②に向け、アイデア（仮説）を検証するための質問や取組を考える。	
	6月3日	6	フィールドワーク②「地域課題の探究」	1.アイデア（仮説）を検証するためインタビュー活動を行う。	2～6
	6月3日	6	フィールドワーク②「地域課題の探究」	2.より有効、詳細な（発展的な）解決策を考え出す。	
	6月9日	7	講義・演習③「地域課題の探究」	1.フィールドワーク②を踏まえ、1番良いと思われる活動を決定。	3～5
	6月9日	7	講義・演習③「地域課題の探究」	2.発表準備	
課題取組	6月23日	8	発表①	グループごとに発表	1～2
	6月30日	9	講義・演習④「行動計画の基礎」	実践活動の具体的な行動計画を立てる。	2
	7月14日	10	発表②	個人で実践活動について発表する。	1
	9月1日	11	実践活動のためのガイダンス	実践活動の注意事項を確認する。	1

（2）NO. 2 講話「地域づくりの実践」

5月6日（木）、探究活動の導入として、講師に取釜宏行氏（一般社団法人まなびのみなと代表理事）をお招きし、探究活動のイメージづくりや疑問・抵抗感解消、また氏がコーディネーターを務める広島県立大崎海星高校の魅力化推進活動の実践例の紹介をいただいた。



(3) NO.3 フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

5月12日(水)、江田島市内4つの事業所に分かれて体験活動を通して、各事業内容や事業者の思いについての質疑応答を行うフィールドワークを実施した。ほとんどの生徒は江田島市出身だが、市内にこのような事業所があることを知らなかった者もあり、地域の魅力の発見や、各事業者の地域に対する思いを知ること、生徒達は地域のために自分達にも何かできることはないかという思いを抱くようになった。

<フィールドワーク先事業所>

【工芸コース】

①江田島焼窯元 沖山工房



②紙布壁紙製造元津島織物製造株式会社



【自然コース】

③大柿自然環境体験学習交流館 (さとうみ科学館)



④瀬戸内いとなみ舎合同会社



(4) NO.5 講義・演習②「課題解決の基礎」、NO.6 フィールドワーク②「地域課題の探究」

6月2・3日(水・木)、交流の家を日帰り利用してカリキュラムを実施した。当初は2泊3日の宿泊利用の予定だったが、緊急事態宣言発令のため2日間の日帰り利用に変更しての実施となった。高校の希望で課題解決型カッターを短縮した形でいい、残りの日程をOR合宿カリキュラムに充てた。



NO.5 講義・演習②「課題解決の基礎」

フィールドワーク①後にまとめた情報マップをもとに、各事業所の課題(テーマ)・解決策(アイデア)・解決策の実行に必要な情報を得るための質問を、KJ法を用いて考えた。どの班も意欲的に、高校生の視点で意見を出しながら活動した。



NO.6 フィールドワーク②「地域課題の探究」

再度事業所を訪問して自分たちの考えを発表し、質疑応答にてさらに詳しい情報を収集した。

【工芸コース】

①江田島焼窯元 沖山工房



②紙布壁紙製造元津島織物製造株式会社



【自然コース】

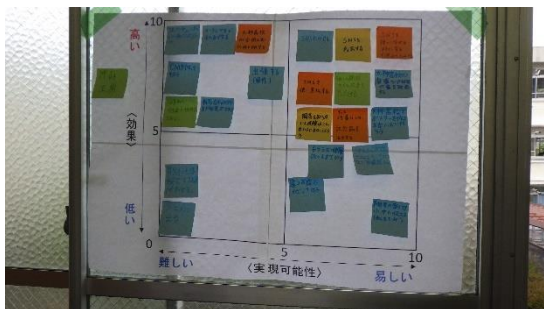
③大柿自然環境体験学習交流館（さとみ科学館）



④瀬戸内いとなみ舎合同会社

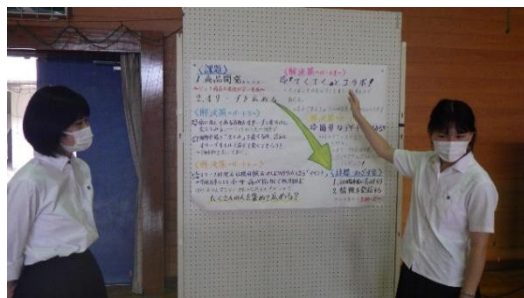


フィールドワーク後、学校へ帰校し、収集した情報をもとにしてより有効な解決策を考え出し、まとめをポスターにする準備（ラフ案）を行った。



(5) NO.8 発表①

6月23日（水）、フィールドワーク②後に各班でまとめた最終的な解決策のポスターを用いて、発表会を行った。交流の家職員以外にもフィールドワーク先の江田島焼の冲山さん、瀬戸内いとなみ舎の峰尾さんも足を運んでくださった。生徒たちは練習で出た発表の課題を工夫して改善し、以前の発表の様子よりも成長が感じられた。



＜アンケートより＞

- （生徒）○様々な視点から対象を捉えることで、多くの解決案が考えられることが分かった。
- 一つ一つの課題を整理し総合的に考えることで、案をまとめることができるようになった。
 - 以前は苦手だったが、自分から積極的に発言や発表ができるようになった。
 - 相手に分かりやすくまとめ、説明や発表ができるようになった。
 - 一人では思いつかないことも、班で話し合うことでたくさん意見が出た。
 - 自分とは違う意見が聞けて、他の人の意見は参考になった。
 - 仲間と協力することを通して、お互いの距離が縮まり、仲が深まった。
- （教員）○校外での活動を通して教室では見られない級友の姿を見たり、課題解決に向かって一緒に話し合うことで自然と協力することを学んでいた。
- 活動を通して生徒間の関係がとても良くなったと感じた。
 - 発表や事業所への提案によって表現力や思考力が身についた。
 - プログラムが綿密に計画されていたので例年のような自転車操業にならず、生徒の力を高めていただいた。
 - 今後も継続して事業の連携ができていければと思う。

上記のように、課題解決方法の習得や、個人や集団の成長についての感想があった。事業の満足度は100%となり（生徒：満足30 やや満足7、教員：満足3）、来年度も継続して実施したい意向も伺うことができた。

＜課題＞

カリキュラム時数の多さにより、長期にわたって担当者が業務を割かれ、負担が大きい。また、今年度は新型コロナウイルスによる休館期間があったため顕著には見られなかったが、そのフォローのために他職員が通常業務を分担せねばならない事態の発生が懸念される。現在、機構本部は簡略的なカリキュラムを開発中である。11月中旬に担当者の研修会で説明がある予定なので、それを受けて次年度について負担を軽減し、継続可能な体制を整えていきたい。